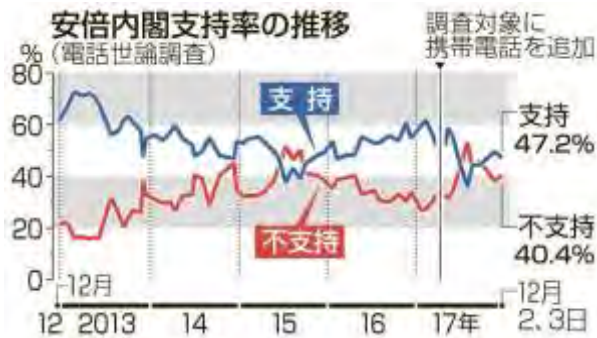


2017年12月3～4日

共同世論調査、日本共産党3中総、立憲法論、政局、米中関係、福島原発

「女性宮家創設」に61%賛成 68%が「待機児童解消優先」

共同通信 2017/12/3 19:32



安倍内閣支持率の推移

共同通信社が2、3両日に実施した全国電話世論調査によると、皇族減少対策として、女性皇族が結婚後も皇室にとどまる女性宮家の創設について「するべきだ」との賛成意見が61.3%に上り、「必要はない」の26.0%を大きく上回った。幼児教育・保育の無償化を打ち出した政府の方針には「待機児童の解消を優先するべきだ」との回答が68.8%に上った。内閣支持率は47.2%で、11月の前回調査から2.3ポイント微減した。不支持率は40.4%だった。

産経新聞 2017.12.3 16:58 更新

女性宮家創設に61%賛成 68%が待機児童解消優先 内閣支持47% 共同通信世論調査

共同通信社が2、3両日に実施した全国電話世論調査によると、皇族減少対策として、女性皇族が結婚後も皇室にとどまる女性宮家の創設について「するべきだ」との賛成意見が61.3%に上り、「必要はない」の26.0%を上回った。幼児教育・保育の無償化を打ち出した政府の方針には「待機児童の解消を優先するべきだ」との回答が68.8%に上った。内閣支持率は47.2%で、11月の前回調査に比べて2.3ポイント減少した。不支持率は40.4%だった。

核・ミサイル開発を進める北朝鮮への取るべき対応を聞いたところ「圧力を強化する」が46.0%、「対話を重視する」が47.8%だった。先の衆院予算委員会で与党の質問時間の割合が増えたことについては「妥当だ」が47.4%、「妥当ではない」が42.8%だった。

学校法人「森友学園」への国有地の売却額算定がずさんだったと指摘した会計検査院報告を踏まえた安倍晋三首相の説明について75.0%が不十分と答えた。

志位氏「民進と共闘」慎重に判断＝共産中央委総会が閉幕  
共産党の第3回中央委員会総会は3日、2019年参院選に向け、野党共闘を本格的に発展させる方針を盛り込んだ幹部会報告を全会一致で採択し、閉幕した。志位和夫委員長は記者会見し、民進党との共闘について、共産党との過去の政党間合意に沿って対応するかを見極めた上で慎重に判断する考えを示した。

民進党は蓮舫執行部時代に、共産党と「憲法9条改悪」阻止や安全保障関連法の白紙撤回などで合意し、野党共闘を進めていたが、前原誠司前代表が先の衆院選直前に希望の党との合流を決め、共闘の枠組みが白紙状態となっている。(時事通信 2017/12/03-18:53)

共産、SNS強化へ「サポーター制度」 赤旗電子版も 朝日新聞デジタル石松恒 2017年12月3日 23時09分



第3回中央委員会総会を終え、記者会見する共産党の志位和夫委員長＝3日、東京都渋谷区の党本部、石松恒撮影

共産党は3日の中央委員会総会で、立憲民主党などの野党と市民との共闘路線を発展させる方針を確認した。2019年の参院選では他党と相互支援する本格的な共闘をめざす。10月の衆院選では野党内で埋没し議席を大幅に減らしており、党勢の拡大との両立が課題だ。

2日間にわたる総会を終えて記者会見した志位和夫委員長は「共闘の時代はずっと続く」との認識を示し、「我が道を行くのではなく、多くの方々と手を携えて政治を変える力を付けていく必要がある」と課題を指摘。次の参院選では過去2回の国政選挙のように候補者を一方的に下ろす対応をせず、共闘関係を強める交渉を進めるとした。

衆院選での低迷を「党の力不足」と認め、新たな支持者拡大のため、来年7月に機関紙「しんぶん赤旗」の電子版を発行し、SNSでの情報発信を強める「JCP（日本共産党）サポーター制度」を近く始める。(石松恒)

共産党、野党共闘を継続確認 連合傘下の労組と協力も 日経新聞 2017/12/3 20:00

共産党は3日、敗北した10月の衆院選を総括する第3回中央委員会総会を終えた。2019年の参院選で立憲民主党など他の野党との選挙協力を継続する方針を確認した。終了後、志位和夫委員長は党本部で記者会見し「市民と野党の共闘と、党の躍進の一体的追求がテーマだったが、ぜひ

挑戦しようということがみんなの決意になった」と述べた。

志位氏は記者会見で「自治労、日教組傘下の労働組合との協力、共闘が広がった。わが党候補への支援の動きも起こっていると各地から報告があった」と語った。自治労、日教組は連合傘下の産業別労働組合。連合は10月の衆院選で、立憲民主党や希望の党、民進党出身の無所属、といった候補を個別に支援し、共産党との選挙協力には反対の立場をとっていた。

志位氏は「ナショナルセンターの違いを超えて、日本の政治を良くしていく大同団結が必要ではないか」と述べ、連合の傘下組織に改めて選挙協力を呼び掛けた。

19年参院選に関しては「32の1人区で野党統一候補を実現して勝利をめざす」と強調。衆院選で共産党が小選挙区の候補を降ろした経緯に触れ「今回は緊急事態の措置。参院選では一方的な対応はやらない。相互推薦、相互支援をめざす」と訴えた。いまの希望の党は「選挙協力の対象にはなりえない」と語った。

産経新聞 2017.12.3 21:39 更新

### 共産党、野党共闘継続確認も道筋見えず つれない他党3中総閉幕



会見する共産党・志位和夫委員長＝

3日午後、東京都渋谷区（川口良介撮影）

共産党の第3回中央委員会総会（3中総）は3日、2年後の参院選で野党共闘を継続し、これまで実現しなかった他党との「相互推薦」を目指す方針を確認し、閉幕した。先の衆院選で選挙協力を行った結果、共産党の比例票は減り、議席数も大きく後退した。共産党との連立政権を否定する立憲民主党や民進党が相互推薦の提案を受け入れるかは見通せていない。

「共闘と（共産党の）躍進の一体的追求に挑戦しようということが、みんなの決意になった」

志位和夫委員長は3中総閉幕後の3日夕、党本部での記者会見で力を込めてこう述べた。3中総では、衆院選の野党共闘の成果として、険悪な関係が長年続いてきた連合の傘下労組との連携が進展していることなどが報告された。志位氏は会見で「自治労、日教組傘下の労働組合との協力が広がった。歴史的な、大変重要な変化だ」と喜んだ。

とはいえ、衆院選の結果に目を向ければ、共闘の効果には疑問符が付く。比例代表の獲得票は前の衆院選の約606万票から約440万票へと激減し、選挙区を含む議席は公示前の21から12に落ち込んだ。立憲民主党は16から55（追加公認含む）に議席を積み増しており、共産党の票が共闘した他党に流れていることは明白だ。

こうした結果に陥った一因は、共産党が一方的に候補者を降ろし共闘勢力全体の議席を増やす方針をとったことにある。志位氏が2日の幹部会報告で「本来、選挙協力は相互的なものだ。次の参院選では過去のような一方的な対応は行わない」と明言したのは、片務的な選挙協力の限界を感じたからにほかならない。

ただ、共産党と政権はともにしない立場を堅持する立憲民主党や民進党にとって「相互推薦」のハードルは高い。政権樹立と選挙協力は別だという前提に立ち、共産党との関係を「阿吽（あうん）の呼吸の候補すみ分け」（旧民主党閣僚経験者）にとどめたいのが本音だ。

「まだ他党との関係について考える段階ではない」

立憲民主党の枝野幸男代表は2日、都内で記者団にこう語り、共産党が相互推薦の方針を掲げたことへの言及を避けた。一方、福田哲郎幹事長は3日放送のラジオ日本番組で、次期参院選の野党共闘について「いろいろな意味で協力関係をつくっていかねばならない」と述べており、行く末は五里霧中だ。（松本学）

### 改憲発議は全会一致で＝枝野立憲代表

立憲民主党の枝野幸男代表は3日、長野市で記者会見し、憲法改正に対する安倍晋三首相の姿勢について「どうしても発議するのであれば、国会で全会一致になるよう努力を進めるべきだ。その姿勢がない安倍政権は無責任だ」と批判した。「最初の発議が否決されれば、改憲の議論自体がタブーになってしまう」とも指摘した。（時事通信 2017/12/03-19:13）

### 枝野氏「全会一致になる努力を」 改憲の国会発議で共同通信 2017/12/3 16:55

立憲民主党の枝野幸男代表は3日、長野市での記者会見で、憲法改正について各党が国会発議で賛成できるような状況をつくるのが望ましいとの認識を示した。安倍晋三首相（自民党総裁）が改憲を目指していることを踏まえ「どうしても発議するなら、国会で全会一致になるくらい努力すべきだ。安倍政権にはその姿勢がなく、無責任だ」と述べた。

発議後の国民投票については「もし最初の発議が否決されることになれば、憲法論議がタブーであるという状況が強まり、決して望ましくない」と指摘した。

産経新聞 2017.12.3 17:04 更新



## 立憲民主・枝野幸男代表 憲法改正の国会発議「全会一致になる努力を」



立憲民主党の枝野幸男代表（斎藤良雄撮影）

立憲民主党の枝野幸男代表は3日、長野市での記者会見で、憲法改正について各党が国会発議で賛成できるような状況をつくるのが望ましいとの認識を示した。安倍晋三首相（自民党総裁）が改憲を目指していることを踏まえ「どうしても発議するなら、国会で全会一致になるくらい努力すべきだ。安倍政権にはその姿勢がなく、無責任だ」と述べた。

発議後の国民投票については「もし最初の発議が否決されることになれば、憲法論議がタブーであるという状況が強まり、決して望ましくない」と指摘した。改憲論議の優先事項として衆院の解散権制約を改めて挙げ「われわれは護憲ではない。良い改正ならば賛成、改悪は徹底的に反対する」と強調した。

## 立憲民主 枝野氏「9条改正反対 改憲発議なら全会一致を」NHK12月3日 18時32分

立憲民主党の枝野代表は、長野市で記者会見し、安全保障関連法を前提にした憲法9条の改正には反対するとしたうえで、自民党などが国会で憲法改正を発議したいのであれば、全会一致になるよう努力すべきだという認識を示しました。

この中で立憲民主党の枝野代表は、憲法改正について、「現状の安保法制を前提に憲法9条を変えようとするならば徹底的に戦う。一方で、衆議院の解散権を制御するなど立憲主義を強化し、権力をしっかりと縛るという観点の改憲であれば、積極的に取り組みたい」と述べました。

そのうえで枝野氏は、「どうしても改正の発議をしたいのなら、国会で全会一致になるくらいの努力をすべきだ。その姿勢がない安倍政権は無責任だ」と述べました。

また枝野氏は、来年の通常国会での対応について、「参議院でも立憲民主党の旗のもとで国会論戦ができる状況をつくりたい。会派を組んで臨めたほうが、国民の期待に政治全体としても応えられるのではないかと述べました。

## 枝野氏、参院にも立憲会派結成を 来年通常国会で 共同通信 2017/12/3 16:42

立憲民主党の枝野幸男代表は3日、長野市で記者会見し、衆院にしかない立憲民主の会派を、来年の通常国会では参

院でも結成したいと意欲を示した。会派は衆参各院において、国会議員2人以上で結成する団体。立憲民主の唯一の参院議員である福山哲郎幹事長は会派に属さず活動しているが、委員会で質問の機会などが得られていない。

枝野氏は、立憲民主が衆院選比例代表で1千万票以上を得たと強調。「通常国会でその負託に応えるには、参院でも立憲民主の旗の下で論戦できる状況をつくらないといけない」と述べた。

## 改選1人区の野党共闘必要 立憲民主幹事長、19年参院選で

共同通信 2017/12/3 11:54



立憲民主党の福山哲郎幹事長

立憲民主党の福山哲郎幹事長は3日放送のラジオ日本番組で、2019年の参院選では、改選1人区で野党共闘を構築する必要があるとの認識を示した。16年参院選では全国32の1人区で野党統一候補が11勝しており「いろいろな意味で協力関係をつくっていかねばならない」と述べた。

国政選挙での野党共闘を巡り、野党内の一部で声が上がっている比例代表の統一名簿方式については「なかなか難しい。われわれは先の衆院選の比例で1100万票を頂いた。これを基礎に、さらに増やす努力をしたい」と語った。

## 枝野氏「通常国会までに参院会派」 現在は福山氏のみ 朝日新聞デジタル中崎太郎 2017年12月3日 17時10分



記者会見する立憲民主党の枝野幸男代表＝3日午後、長野市、岡林佐和撮影

立憲民主党の枝野幸男代表は3日、長野市で記者会見し、「来年の通常国会では、参院でも立憲民主党の旗の下で国会論戦できる状況をつくらないといけない」と述べ、衆院に続き、参院でも立憲会派の立ち上げをめざす考えを示した。現在、立憲の参院議員は福山哲郎幹事長のみ。

枝野氏は同日、民進党の杉尾秀哉参院議員(長野選挙区)の会合に出席。会見に同席した杉尾氏に対し、「(衆院選での)国民の負託に十分に応えるためには参院の論戦でも力を発揮していきたい。その中心を担って頂けたらありがたい」と立憲入りと呼びかけた。杉尾氏は「重く受け止め、タイミングを含めて熟慮したい」と応じた。

通常国会の焦点となる憲法改正について、枝野氏は「もし(国民投票を)発議するのであれば、国会で全会一致になるくらいの努力をするべきだ。その姿勢がない安倍政権は無責任だ」と述べ、政権の姿勢を批判した。

現状の安全保障法制を前提にして自衛隊を明記する9条改憲に関しては「徹底的に戦っていく」と反対を明確に打ち出す一方、内閣による衆院解散権の制約については「リアリティー(現実性)があれば積極的に取り組みたい」と述べた。(中崎太郎)

### 立憲民主・枝野代表、参院会派結成に意欲

日経新聞 2017/12/3 19:00

立憲民主党の枝野幸男代表は3日、長野市内で会見し「来年の通常国会では、参院で立憲民主党の旗のもとで国会論戦できる状況を作らないと(いけない)」と述べ、参院での会派結成に意欲を示した。会派は衆参各院で、国会議員2人以上で結成する。同党所属の参院議員は福山哲郎幹事長のみで会派に所属していないため、参院の本会議や委員会での質問の機会がない状況にある。

産経新聞 2017.12.4 01:00 更新

### 【単刀直言】立憲民主党・枝野幸男代表 希望との再合流「あり得ません」 自公議席数はたまたま、「改憲」国民投票しても否決

昔から「政治の世界は一寸先は闇」といわれていますが、自分自身が当事者となって、こんなに激しい体験をするとは思っていませんでした。民進党の中でも新党や再編などに最も消極的な立場だったので、自分が党を立ち上げるなんて想像もしていませんでした。

政権交代目的化はダメ

「政権交代のため、野党はまとまらなければならない」という言葉は、この選挙では説得力を持っていませんでした。国民にとって「政権交代」が重要なのではなく、結果的によい政治をしてくれるか否か。むしろ、党が何を目指すのか、自民党とどこが違うのか明確にしてほしいとの求めこそ強くありました。

この声に応えたことが今回の衆院選での立憲民主党の結果につながりました。違うものを無理やり1つの箱に入れるのではなく、相違点を別々の党として明確にする。その上で「一致点の範囲で協力しましょう」と目に見える形で決める。

私は民主党、民進党で幹事長をやっていたとき、党運営

に相当無理をしていた自覚がありました。反省も込めていえば、おそらく国民の皆さんもそう感じていたからこそ、いくらアピールしても支持率や選挙結果に結びつかなかったのでしょう。もちろん、今のわが党の支持率が実力とは思いませんが、明確に立ち位置を示すことが大事でした。

「なぜ希望の党や民進党と国会で統一会派を組まないのか」とも指摘されますが、統一会派という枠組みの話に引張られるあまり、立憲民主党の立ち位置が不明確になるのなら元も子もありません。そもそも、僕は希望の党とのカラーの違いを感じたから合流しなかったのですから。

したがって希望の党と再合流なんてあり得ません。自己否定になってしまいます。立憲民主党と希望の党、民進党が再び1つになって政権交代を目指すべきだとの意見もありますが、衆院選を通じて学んだのは、政権交代が自己目的化してしまったら国民から支持されないという事実です。可能な範囲で野党間の連携、協力を進めることは必要ですが、私は政権交代から逆算する立場とは違います。国民の皆さんは、理念、政策を無視してまで何が何でも政権が代わってほしいとは思わないでしょう。

護憲政党とは違います

立憲民主党は「護憲政党」とレッテルを貼られることがあります。違いますが、私自身、政治家として24年間、「あなたは護憲派ですか、改憲派ですか」という質問に「護憲派」と答えたことは一度もありません。憲法が良く変わるなら変えればいいし、悪く変わるなら徹底的に反対する。

私もかつて、解釈改憲ができないよう憲法9条に個別的自衛権の限界をギチギチに明記するのはありだと私案に書いたことがあります。もし憲法9条に3項を書き加え、個別的自衛権まで否定するような案が出てきたら、「改憲派」を称する人たちは猛反対するでしょう。「護憲」と「改憲」は、案件や方向で立場が入れ替わるのです。

わが党の憲法議論は「立憲主義」。もし条文を変えるのなら、憲法というルールで、どう権力の暴走をより良く歯止めをかける方向に持っていくか。こういう議論です。一番は、首相による解散権の制約の話。次いで臨時国会の召集期限。「護憲」ではないので、建設的な良い議論なら否定しません。

現在の自民党の改憲議論は非常に内向きです。そもそも国民投票で否決されるような発議をすべきでない。今回の衆院選で、自民、公明両党を合わせた得票率は選挙区でも5割を切りました。その状況で、現在の、たまたまの議席で押し切って発議して、国民投票で否決されたらどうするんですか。それこそ最悪ですよ。あえていえば、共産党にも賛成してもらおうぐらいの発議をしなければならないんじゃないですか。

今でも樺坂「不協和音」

外交・安全保障の立ち位置も質問されますが、コントロールできない周囲の国際状況に左右されるため本来、選択

肢の幅は狭い。その中で何を選擇するかは、主義主張やイデオロギーでなく現実的外交交渉の話です。日米同盟は基軸ですし、むしろ強化すべきだと考えています。

年が明ければ、広く一般に黨員募集に向けた動きを始めます。党所属国会議員のいる地域には、できれば年内に都道府県組織も立ち上げたい。民進党と一緒にやってきた自治体議員らとの関係は大切にしたいと思いますが、それ以上に、衆院選で立憲民主党に期待し投票いただいた皆さんに伝えていかなければならない。地域に根を張った組織づくりを進めることはそうした皆さんへの責任です。

衆院選後、趣味のカラオケに4、5回行きました。党を立ち上げる直前に私が樺坂46の「不協和音」を歌いたいとつぶやいたことが話題になりましたが、前から歌っていました。今でも歌っています。(千田恒弥)

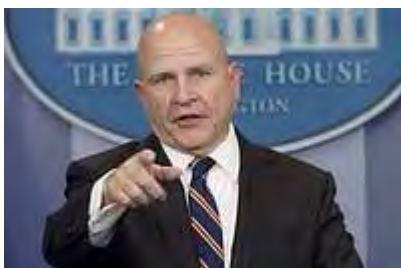
産経新聞 2017.12.4 00:22 更新

### 立憲主義と民主主義は「最高の価値」 立憲民主党が綱領改定案 同一の民進党から「独立」へ

民進党から分裂した立憲民主党の党綱領改定案が3日、判明した。立憲主義と民主主義を「最高の価値」として守るとし、「草の根からの声に基づく政治」「多様性を認め合う社会」の重視などを打ち出した。同党関係者が明らかにした。

衆院解散後の10月2日に枝野幸男代表が結党を表明し、同月3日に正式に発足した立憲民主党は、民進党と同じ綱領を掲げている。衆院選を経て野党第一党に躍進したことで今後は独自路線を強める方針で、綱領にも反映させる。4日の幹部会合などで議論を進め、年内にも改定する方針だ。

### 米高官、衝突の危険「日ごと高まる」＝北朝鮮ミサイル開発加速に危機感



マクマスター米大統領補佐官＝11月2日、ワシントン(AFP＝時事)

【ワシントン時事】マクマスター米大統領補佐官(国家安全保障担当)は2日、北朝鮮との武力衝突の危険性が「日ごとに高まっている」と警告した。北朝鮮が米本土全域を射程に収める大陸間弾道ミサイル(ICBM)発射に成功したと発表したことで、米政権がさらに危機感を強めていることを示した。

カリフォルニア州で開かれた国防関係のフォーラムで、

マクマスター氏は北朝鮮の核・ミサイル開発に関し「われわれは問題を解決する競争の中にいる」と指摘。非軍事的手段で解決する道は残されていると述べながらも、北朝鮮が兵器開発を加速させていることを踏まえ「残された時間は多くない」と語った。(時事通信 2017/12/03-15:36)

「足元にメルトダウンの原子炉が」記者、3号機に登る 朝日新聞デジタル川原千夏子 2017年12月3日 20時35分



燃料

取り出しに向け、ドーム状の屋根の設置作業が続いている 福島第一原発3号機の最上階＝1日、福島県大熊町、竹花徹朗撮影







東京電力福島第一原発3号機の建屋最上階に今月初め、取材に入った。事故から6年半以上が経ち、取材が可能なレベルまで放射線量は下がったが、使用済み燃料プールにがれきがあるなど事故の痕跡がいまだに残り、廃炉の道のりは遠いと感じた。

3号機に向かう前に、内部被曝（ひばく）量を事前に計測。建屋から100メートルほどの拠点で防護服と鼻と口を覆う半面マスクを着用し、歩いて3号機に向かった。建屋のそばに着くと、放射線量は毎時0・1ミリシーベルトを超えた。

傷んだ建屋に負担をかけないために組んだ足場のエレベーターに乗り、オペレーティングフロアと呼ばれる建屋最上階に上り、敷き詰められた鉄板に立った。目に入るのは全て真新しい設備で、どこかのビルの屋上ようだ。事故直後の鉄骨がぐにゃりと曲がり鳥の巣のようだったががれきは取り除かれていた。

7月の原子炉内の調査では、溶…

### 崩れ落ちた建屋、今は？ 写真で見比べる福島第一原発

朝日新聞デジタル川原千夏子 2017年12月3日 20時05分



原子炉建屋上部にドーム状の屋根が新設されている福島第一原発の3号機（中央）。手前右は4号機＝1日、福島県大熊町、竹花徹朗撮影



6年前に撮影した福島第一原発の原子炉建屋。中央が水素爆発で壊れた3号機。右手前は4号機、左奥に2号機と1号機＝2011年11月、福島県大熊町、相場郁朗撮影

東日本大震災で原子炉建屋が水素爆発を起こした東京電力福島第一原発。1～3号機の建屋最上階のプールには、今も使用済み燃料が残る。リスクを下げるためにその取り出しは急務だ。今月初めに構内に取材に入ると、最も早く取り出しにかかる予定の3号機では、崩れ落ちた天井や壁の解体が終了し、ドーム状の屋根の新設が進んでいた。

3号機は水素爆発で建屋が大きく崩れ落ちた。がれきが使用済み燃料プールをふさぎ、機器の一部もプールに落下。燃料566体の取り出しの妨げになった。東電はがれきの撤去を進め、今夏にドーム状屋根の建設を開始した。

構内の高台に立つと、崩れた建屋が構造物で覆われ使用済み燃料の搬出が終わった4号機の向こうに、3号機のドーム状屋根の全体像が見え始めていた。来年度中ごろの取り出し開始を目指して、ドーム内にクレーンも設置。準備作業は大詰めを迎えている。（川原千夏子）